

Performing Arts

Touch, Contact, Bones:
Steve Paxton + Lisa Nelson Dance Project

Night Stand [ナイト スタンド]

2009 年 5 月 17 日 (日) 18:00 開演 *17:30 開場
スパイラルホール (スパイラル 3F)

コンタクト・インプロヴィゼーションの創始者スティーヴ・パクストン、34年ぶりの来日公演

スパイラルは、2009年5月17日(日)、世界的なダンサーであるスティーヴ・パクストンとリサ・ネルソンによるダンス公演「Night Stand(ナイト スタンド)」をスパイラルホール(スパイラル3F)にて開催致します。

スティーヴ・パクストンは、1960～70年代にニューヨークの前衛舞踊シーンを飾ったアメリカ・ポスト・モダンダンスの中心人物の1人です。社会の慣習や伝統にとらわれず、身体のあるあらゆる感覚と行為の枠組みを問い直したその活動は、近代舞踊史におけるひとつのターニング・ポイントとなり、やがてコンテンポラリーダンス、さらにはその後のさまざまなボーダレスな芸術活動へ繋がっていきました。特に、彼が創始した「コンタクト・インプロヴィゼーション※」は、ダンサーをはじめとする身体表現者たちにとって必須技法であるとともに、コミュニティ・ダンスやセラピーの分野にも広く浸透し、影響を及ぼしてきました。

今回、34年ぶりの来日を果たすパクストンが披露する「Night Stand」は、1975年以来コンタクト・インプロヴィゼーションを中心にコラボレーションを続けてきたリサ・ネルソンとの活動の集大成ともいえる作品です。舞台は、世界的に高い評価を得ているアメリカの現代音楽家ロバート・アシュレイによる抽象的な音楽が流れるなか、すべてが暗闇の中で展開していきます。照明がゆっくりと暗い空間を照らし出し、身体の動きと重なり呼応していきます。瞑想的で、緩やかな時間のなかで、2人が長年にわたり



"Night Stand" Lisa Nelson and Steve Paxton
Photo: Gil Grossi

追求してきたダンス、即興、演劇のあるあらゆる要素が展開する繊細な作品です。

本公演は、DDJCが主催する「タッチ、コンタクト、ボーンズ:スティーヴ・パクストン+リサ・ネルソン ダンス プロジェクト」との連携により開催するものです。パクストンの芸術思想と活動、彼独自の身体へのアプローチと方法論の実際を、本人との直接の接触を通して学び、対話し、新たな芸術の在り方とともに追求する相互交流の場となることを目指します。プロジェクトでは、本公演のほか国際芸術センター青森、山口情報芸術センター、京都芸術センターなど各地を巡回しながら展示やワークショップが行われます。パクストンの芸術世界に多くの人々が触れる、またとない機会となるでしょう。

※コンタクト・インプロヴィゼーション…ダンスの即興形式。他者との接触をととして動かし動かされながらそこに生じる力に身体を委ねることで、既存のダンス・イメージを越えた新しい動きの経験を可能とする。ダンスの訓練／振付／上演の手法としてのみならず、自己探求やコミュニケーションの活動として欧米を中心に世界中で様々な人々によって行われている。

掲載や取材に関するお問い合わせは、下記までご連絡ください。

◆「Night Stand」公演について

スパイラル/株式会社ワコールアートセンター 広報部
担当 加藤、清水
TEL 03-3498-5605 FAX 03-3498-7848
〒107-0062 東京都港区南青山 5-6-23
E-mail press@spiral.co.jp WEB www.spiral.co.jp

◆「Steve Paxton + Lisa Nelson Dance Project」について

DANCE DOCUMENTS JAPAN COMMITTEE(DDCC)
担当 田坂、小鹿、印牧
TEL 03-3470-2664 FAX 03-3470-2259
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 1-21-1
E-mail ddjc@ddjc2009.org WEB www.ddjc2009.org

公演概要

スティーヴ・パクストン+リサ・ネルソン ダンス プロジェクト「Night Stand(ナイト スタンド)」

日時:2009年5月17日(日) 17:30 開場/18:00 開演

会場:スパイラルホール(スパイラル 3F) 〒107-0062 東京都港区南青山 5-6-23

東京メトロ銀座線・千代田線・半蔵門線「表参道」駅 B1 出口すぐ

料金: 前売 A 席 5,000 円/B 席 3,500 円

当日 A 席 5,500 円/B 席 4,000 円(全席自由)

ダンス:スティーヴ・パクストン、リサ・ネルソン

照明デザイン:キャロル・マリンス

音楽:ロバート・アシュレイ/ピョートル・マモノフ

初演:2004 年 モンペリエ(フランス)

主催:DANCE DOCUMENTS JAPAN COMMITTEE (DDJC)

共催: 京都の暑い夏事務局

株式会社ワコールアートセンター

東京藝術大学大学院映像研究科

近畿大学国際人文科学研究科

早稲田大学演劇博物館グローバル COE 舞踊研究コース

財団法人山口市文化振興財

協力:公立大学法人青森公立大学 国際芸術センター

青森 AIR 実行委員会(予定)

助成:日米友好基金/Asian Cultural Council/財団法人セゾン文化財団

チケット情報

3月17日(火)チケット発売開始

スパイラル 03-3498-1171(スパイラル代表)

スパイラルオンラインストア <http://store.spiral.co.jp>

チケットぴあ 0570-02-9999 [Pコード:393-631]

ダンサー・プロフィール

スティーヴ・パクストン Steve Paxton ダンサー/振付家



1939 年アメリカ、アリゾナ州フェニックス生まれ。

現在はヴァーモント州に住み、有機農業を営みながら、アメリカとヨーロッパを中心にダンスと振付の創作活動、講義、公演を行っている。マーサ・グレアムとホセ・リモンから現代舞踊を学んだ後、バレエ、合気道、ヨガ、太極拳、ヴィパッサナ瞑想などを修得。1961-65 年マース・カニングハム舞踊団のダンサーとして世界各地で公演。60 年代ジャドソン・ダンス・シアター、70 年代グランド・ユニオン、80 年代タッチダウン・ダンス(視覚障害者のためのダンス=英国)の創始メンバー。1972 年ニューヨークでコンタクト・インプロヴィゼーション(C.I.)を発表。現在 C.I.は世界各国で実践され、その国際的なネットワークとして定期刊行物 *Contact Quarterly*(パクストンは共同編集者/執筆者)が発行されている。全米芸術基金(NEA)、ロックフェラー基金、グッゲンハイム・フェローシップなど助成多数。1987 年と 1999 年にニューヨークのベッシー賞(ダンス&パフォーマンス部門)受賞。近年では、ミハエル・バリシニコフ、トリシャ・ブラウン、リサ・ネルソン等とコラボレーションを発表。1986 年以降 C.I.をベースにした“Material for the Spine”を新たなメソッドとして展開し 2008 年にベルギー Contredanse より Material for the Spine, a movement study(DVD-ROM)を出版。C.I.を手がけてから現在に至る約 40 年間、文化としてのダンスの創作と、即興の“実相”の探究を続けている。

リサ・ネルソン Lisa Nelson 振付家/即興舞踊家/ビデオ作家



Photo: Daniel Lepkoff

1970 年代初期から、上演における感覚の役割や動きの観察を探索し続けている。ビデオとダンスの活動を通して、自然発生的な作舞/上演法である“Tuning Scores”を展開。これはネルソンがサイトスペシフィックな観測所(Observatories)と考えている、複数のアーティストが行なうアンサンブル・パフォーマンスのためのコミュニケーション形式である。この独自の方法を中心に欧米、中国、豪州、イスラエル等で、上演活動、指導、ダンスの創作活動を行い、パクストン、ダニエル・レブコフ、スコット・スミス等、多数の先駆的アーティストたちとともに長年に渡るコラボレーションを続けている。1987 年にニューヨークのベッシー賞(ダンス&パフォーマンス部門)を、2002 年にアルバート芸術賞を受賞。30 年間にわたり、ダンスと即興に関する国際的な定期刊行物 *Contact Quarterly* の共同編集者として活動。即興ダンスのビデオ制作、アーカイブ及び配給を行うビデオダ社(Videoda)のディレクターも務める。現在、アメリカ、ヴァーモント州在住。